

ジャパン・オープンサイエンス・サミット2021セッション E7
FAIRなデータキュレーションの実践

関連セッション報告（セッションE6）

CHORUS フォーラム

－ 研究ワークフローにおけるFAIRデータ（ファンディングから論文出版まで）

小賀坂康志(JST)



趣旨

- オープンサイエンスに関する各種ポリシーやガイドラインが整備されつつあり、これを反映した研究ワークフローが、学術コミュニケーションのエコシステム全体で形作られようとしています。
- その上で欠かせない考え方が研究データの取り扱いにおけるFAIR原則（Findable, Accessible, Interoperable and Reusable）であり、これをどう実装していくかが今後の課題と言えます。
- 研究者は現在、データ管理計画（DMP）を作成しデータを共有可能にすることを、ファンド機関、所属機関、論文投稿先ジャーナルおよび関連研究者から、義務化ないしは推奨・要請されています
- FAIR.こうした状況を踏まえて、JOSS2021におけるCHORUSフォーラムでは、**ファンディングから論文出版・引用に至る各段階でどのようにFAIR原則を実践していくか、マルチステークホルダーからなるパネリストによる講演および議論を通じて考えます。**



American Chemical Society



Association for Computing Machinery



Taylor & Francis Group
an informa business



PNAS



IOWA STATE
UNIVERSITY



Los Alamos
NATIONAL LABORATORY
EST. 1943



National Institute for
Environmental
Studies



CHIBA
UNIVERSITY



東北学院大学
TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY



慶應義塾
Keio University



Smithsonian
Institution

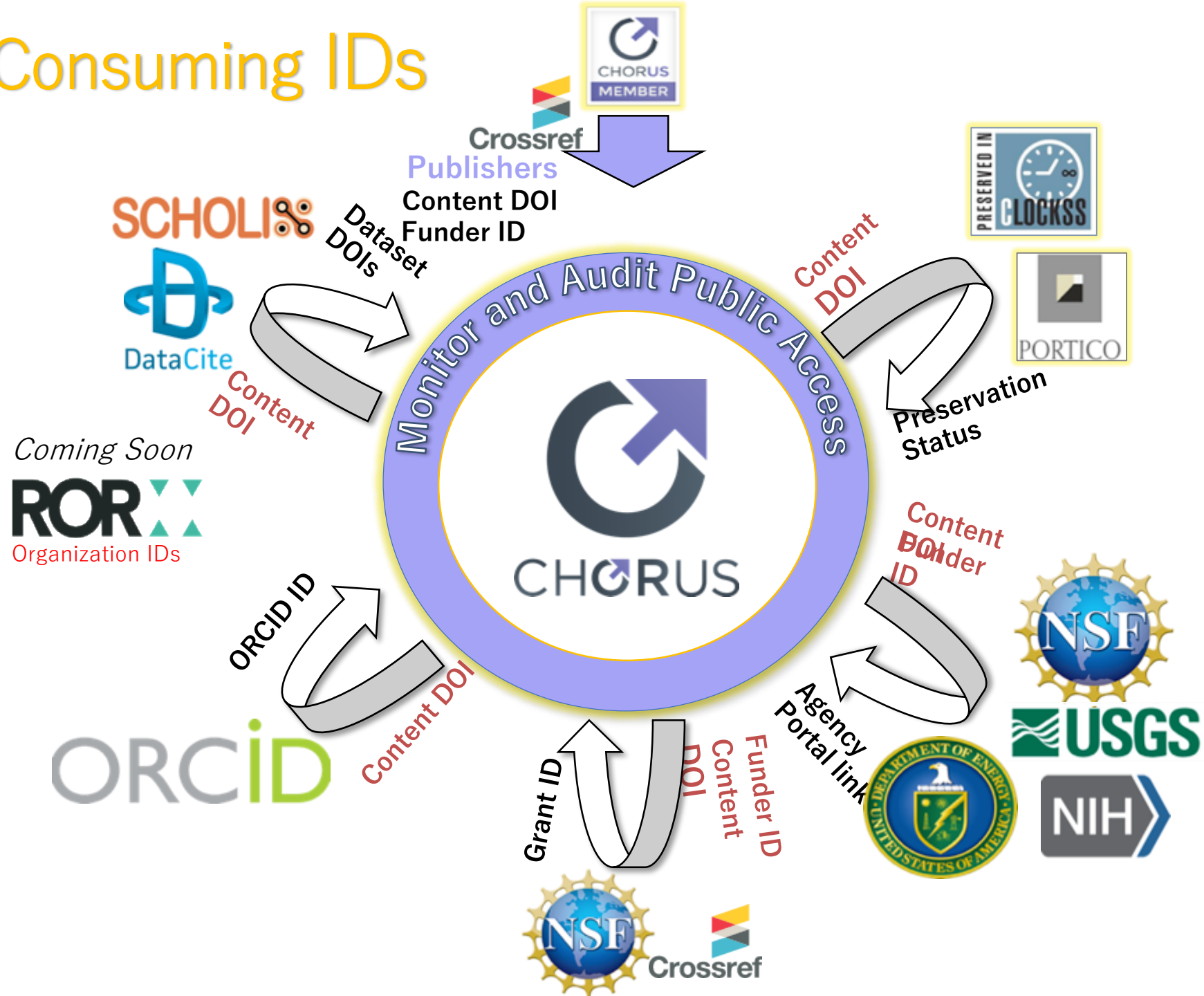


USAID
FROM THE AMERICAN PEOPLE



USGS
science for a changing world

Consuming IDs



パネリスト（登壇順）

- 谷藤幹子(物質・材料研究機構(NIMS))

「研究機関におけるデータ管理およびFAIR原則への対応」

研究機関

- 中島律子(科学技術振興機構(JST))

「JSTにおけるファンディングデータ管理フロー：効率、正確さ、ル

ファンディング+
学術情報機関

- Shelley Stall(アメリカ地球物理学連合(AGU))

「FAIRデータの実践：論文根拠データの保存と引用の重要性」

学協会

- Howard Ratner (CHORUS)

「CHORUSとFAIRデータ」

サービス提供者

- 小賀坂康志(科学技術振興機構(JST) / 座長)

「RDAファンド機関グループ報告」

コミュニティ(RDA)

- 南山泰之(国立情報学研究所 (NII) / セッションE7)

「JOSSセッション「FAIRなデータキュレーションの実践」の紹介」

プラクティショナー